



第1回災害治療学研究所シンポジウムが開催されました

千葉大学災害治療学研究所では、地震や台風などの災害や新興感染症などに対する国民の長期的不安の解消という社会的ニーズに対応した研究活動と、その成果の社会還元加速・実質化を図るため、第1回災害治療学研究所シンポジウムを令和4年3月2日に開催しました。このシンポジウムには生命科学系、自然科学系、人文社会科学系の多様な分野の研究者や、研究推進を担うUR Aなど43名が参加しました。

三木研究所長からの挨拶の後に行われた第1部では、災害治療学研究所に所属する5名の研究者から、自身が保有する研究シーズの特徴や強みを発表するとともに、これらのシーズを用いて行う災害治療学分野の異分野共同研究の意見交換が行われました。

第2部では、木村副理事より昨今の政府の研究グラントの動向についての講演が行われた後、自由討議に移り学術研究とは異なるマインドで行われる社会実装志向の研究開発プロジェクトの実現に向けた活発な議論が行われました。会場に来ていた齋藤康元学長や藤江理事などからもご発言があるなど、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。

シンポジウム終了後には、会場の各所で研究者が集まり新たな共同研究に向けた議論や打ち合わせが行われるなど、開催成果が早速あらわれるものとなりました。



三木隆司所長による研究シーズの紹介



災害治療学研究所の所属研究者
および参加者